

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0970300273		
法人名	社会福祉法人 星風会		
事業所名	星風会グループホームこすもす		
所在地	栃木県栃木市惣社町121-3 (電話) 0282-27-2215		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年2月4日	評価確定日	平成21年3月6日

【情報提供票より】 (平成21年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年5月1日, 平成16年6月1日, 平成17年8月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	8 人	常勤3人, 非常勤5人, 常勤換算7.3人	
	8 人	常勤3人, 非常勤5人, 常勤換算7.3人	
	8 人	常勤3人, 非常勤5人, 常勤換算7.3人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造亜鉛メッキ金鋼板葺		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	11,800円(こすもす)	その他の 経費 (月額)	理美容代, おむつ代—実費	
	11,740円(こすもす2号館)		光熱水費—12,000円, 施設維持管理費—4,040円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	月額1,000円
	または1日当たり		1,340 円	

(4) 利用者の概要 (平成21年1月20日現在)

利用者人数	27 名	男性	8 名	女性	19 名	
要介護1	5 名	要介護2	12 名			
要介護3	8 名	要介護4	2 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	84 歳	最低	73 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	星風会病院星風院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、幹線道路からやや奥まった田園に囲まれた場所に位置している。同法人のケアハウスなどが隣接しており、法人の地域交流事業として、こすもすフェスタなどが行われている。瓦葺屋根の1号館、2ユニット続きになっている洋風の2号館の3ユニットからなるホームで、計画作成担当者を中心に協力しながらもそれぞれ独自の運営をしており、それぞれの「家柄」も異なっている。前回の外部評価以降、運営推進会議を実施するようになったり、スプリングラーを取り付けたり、外出の機会を意識的に増やしたりと具体的な改善を図っている。真摯な自己評価の内容からは、今後更に入居者への個別支援や地域との関係を深めていきたいという思いが垣間見える。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	外部評価のあとには職員会議で話し合うなどして改善に努めている。前回の外部評価からは、外出の機会を増やしたり、運営推進会議を実施したり、スプリングラーを設置したりといった改善をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価は、各ユニットの計画作成担当者(リーダー)を中心に職員が関わる形で実施した。法人としてISO認証を取得していることから、品質管理のための評価も定期的に行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	今年度(12月)から運営推進会議を実施するようになった。入居者、入居者家族、自治会の方、地域包括支援センター職員(市職員)がメンバーになっている。入居者からの意見も含め、参加者から今後の運営の参考になるような意見が出されている。今後2ヶ月に1回程度の開催をしていく予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族の訪問の際や電話で入居者の状況等を報告している。ホーム内には外出した際の写真等が貼ってあった。預かり金は毎月精算して報告している。職員が異動した場合などには家族が訪問した際などに紹介している。法人として苦情受付の体制を整えており、重要事項説明書にホームの苦情受付担当者・苦情解決責任者、第三者委員の連絡先、及び解決手順が明記されている。意見箱を置いており、過去に意見が寄せられたこともある。家族の訪問の際や電話で話をする際に意見等を寄せてもらえるように努め、要望があった時には朝礼や職員会議、申し送りノートで職員間の共有を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	近隣の方とは散歩の際などに挨拶を交わしている。隣にある法人のケアハウスの住民に遊びに来てもらえるよう声かけをしている。法人の地域交流事業としての「こすもすフェスタ」「花祭り」「文化祭」などに参加している。地域で行われる文化祭、学校祭に出かけたりもしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としてISO認証を取得しており、「お客様にご満足頂けるサービスを提供します」「常に高い目標に向かって前進し続けます」「地域に貢献し、信頼される法人を目指します」を法人理念として掲げている。また、各ユニットごとに個別具体的な年度目標を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念は各職員のネームプレートの裏に挟み込んである。また、個々のユニットの目標については、達成度合いを評価する仕組みがある。各ユニットでは毎月の職員会議やケース会議、年数回の研修を通して、目標の実践に努めている。	○	グループホーム全体として、あるいは個々のユニットごとに、地域密着型サービスとして目指す方向性を理念としてまとめあげていくことに期待したい。また、その過程において全職員が関わることで自分たちの大切にすべきこと・したいことを再確認し、意識あわせをしていくことにも期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方とは散歩の際などに挨拶を交わしている。隣にある法人のケアハウスの住民に遊びに来てもらえるよう声かけをしている。法人の地域交流事業としての「こすもすフェスタ」「花祭り」「文化祭」などに参加している。地域で行われる文化祭、学校祭に出かけたりもしている。	○	地域との交流を増やしていきたいと考えている。今年度から運営推進会議を実施するようになり、参加者から神社に出掛けることやボランティアの交流などの助言をもらっている。自治会行事への参加等も含め、災害対策の話し合い等々、入居者が地域の中で暮らすための支援を深めていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価のあとには職員会議で話し合うなどして改善に努めている。前回の外部評価からは、外出の機会を増やしたり、運営推進会議を実施したり、スプリンクラーを設置したりといった改善をしている。自己評価は、各ユニットの計画作成担当者（リーダー）を中心に職員が関わる形で実施した。法人としてISO認証を取得していることから、品質管理のための評価も定期的に行っている。		

星風会グループホームこすもす

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度（12月）から運営推進会議を実施するようになった。入居者、入居者家族、自治会の方、地域包括支援センター職員（市職員）がメンバーになっている。入居者からの意見も含め、参加者から今後の運営の参考になるような意見が出されている。今後2ヶ月に1回程度の開催をしていく予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者あるいは各ユニットの計画作成担当者が窓口となって市に報告や相談等をしている。今年度から運営推進会議に地域包括支援センター職員（市職員）に参加してもらっており、質問・助言をもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問の際や電話で入居者の状況等を報告している。ホーム内には外出した際の写真等が貼ってあった。預かり金は毎月精算して報告している。職員が異動した場合などには家族が訪問した際などに紹介している。	○	職員の異動など、家族が気になることをタイムリーにお知らせできるよう、広報誌やお便りなどの報告手段の検討をしてみることに期待したい。また、以前は家族会があった時期もあり、料金改定などホーム運営にかかる重要事項についての情報提供・話し合いなどの意味でも、家族会的な場づくりを検討してみることに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として苦情受付の体制を整えており、重要事項説明書にホームの苦情受付担当者・苦情解決責任者、第三者委員の連絡先、及び解決手順が明記されている。意見箱を置いており、過去に意見が寄せられたこともある。家族の訪問の際や電話で話をする際に意見等を寄せてもらえるように努め、要望があった時には朝礼や職員会議、申し送りノートで職員間の共有を図っている。	○	運営推進会議に家族の代表（複数）に参加してもらっており、意見をだしてもらっている。敬老祝賀会に家族の参加を呼びかける等、家族との接点づくりも検討している。家族への情報提供を更に充実していくことも検討しながら、率直に意見を言ってもらえるよう更に取り組みを充実していくことに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年では非常勤職員の退職による法人内異動が2名ほどあった。法人内での異動の可能性はあるが、馴染みの関係を大切に、できるだけユニット間異動に留めるようにしている。複数人をユニット間異動をするときには時間差を設けて異動したり、当初は夜勤などを周りの職員がカバーするなどして入居者への影響を減らす配慮をしている。法人として職員住宅を設置している。		

星風会グループホームこすもす

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回、ユニットごとにその時の課題をテーマにして内部研修を実施している。外部研修は、その時々体制を勘案しながら各ユニットの計画作成担当者が人選して、職員が平等に研修受講の機会を確保できるよう配慮している。管理者は認知症介護実践研修などに積極的に職員を参加させたいと考えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。複数の職員で他市のグループホームに見学に行ったりもしている。	○	市などとも相談しながら市内のグループホーム間のネットワークづくりを検討していくことにも期待したい。また、管理者は認知症介護実践研修に職員を積極的に参加させたいとも考えているので、研修を通じたネットワークづくりという意味でも期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初回の相談は家族中心になることも多いが、入居前には本人にもホームに来てもらい、日帰りでの体験や宿泊体験を通して本人も納得した入居になるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の後片付けや洗濯物たたみ、ゴミ捨て、畑での収穫など、本人の生活歴やできることに配慮しながら一緒に行うようにしている。訪問日には膝を折って入居者と話している職員の姿が見られ、入居者との関係を大切にしている様子がうかがえた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「ご要望情報」の様式をつくっており、生活の中で本人からでた要望を聞き逃さないように努めている。意向の表出等が難しい方については、日頃の生活の中から推し量ったり、家族の協力を得ながら本人本位の支援ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を踏まえ、必要に応じて訪問看護師とも連携し、ケース会議で検討しながら介護計画の作成・見直しをしている。家族の意向は、家族が訪問した際などに聞いておくことが多い。	○	ケース会議に家族の参加が得られればと考えており、家族も含めたチームケアを指向している様子がうかがえる。重度化・終末期の対応という部分も含め、本人がより良く暮らせるよう、必要な関係者と話し合いができる場をつくっていくことに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを実施しながら、基本的には6ヶ月に1回、介護計画を見直している。状態・状況の変化があったときには、随時本人・家族の意向を確認し、職員間で話し合い、ケース記録を通じてケアの統一を図っている。また、入居当初は1ヶ月の暫定的な介護計画を作成し、ホームでの生活を見たうえで見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。通院は基本的に家族が行うこととなっているが、必要に応じて職員が通院に付き添ったり、訪問看護師と連携するなどして本人・家族の状況にあった柔軟な支援に努めている。買い物便や弁当を持つための外出などの機会もつくっている。		

星風会グループホームこすもす


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医療機関での受診を支援している。法人の特性として、関係法人に医療機関があり、2週間に1回往診してもらえる体制になっている。また、週1回訪問看護師が来訪しており、健康チェックをしてもらったり、相談ができる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	関係法人の医療機関や訪問看護師との連携体制がある。過去に家族、主治医、訪問看護師、職員で話し合いを持ちながら、終末期の介護を行った例がある。風呂場の手すりの増設など、設備上の工夫や職員の努力で重度化に対応している様子がうかがえる。	○	看取りを経験したからこそ重度化や終末期の対応について改めて学ぶ機会をつくらうと考えている。また、2号館では今年度から夜勤体制が変更（2名→1名）に変わるなど、以前看取りを行った状況から変わっている。今後も職員間での話し合いや家族との話し合いを通して、ホームで対応できる本人にとっての最善の方法の検討・体制の構築を図っていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が膝を折って入居者と話をしている姿が見られた。本人のそばに寄って話をしていたり、本人の嫌がることや特定の人のことを話さないなど、プライバシーやプライドに配慮した対応を心がけている。個人記録等については、事務スペースに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を聞きながら食事や散歩、レクリエーションなど、できるだけ入居者のペースに沿った支援に努めている。訪問日にも自由に外に出られている入居者の姿が見られ、慌しそうな場面も見受けなかった。	○	ホームとしては、更に一人ひとりの希望にそった支援を深めていきたいと考えている。介護の度合いが高まっている様子も見られるが、工夫をしながら一人ひとりの習慣や希望にそった暮らし方の支援を更に深めていくことに期待したい。

星風会グループホームこすもす

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は委託業者から調理されたものが届き、盛り付けを各ユニットで行うようになっている。ユニットによっては一品、二品を作ったり、鍋パーティーをしたりもしている。食器の後片付けやテーブル拭きなどは、入居者が協力しながら行っていた。職員も入居者と同じ物を一緒に食していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	主に13:30～16:00ぐらいの時間帯で入浴を支援している。今は一日おき、週3回の入浴が多いが希望があれば変更したり順番を変えたりといった工夫をしている。身体機能の低下でそれが難しくなっている状況もあるが、できるだけ本人の希望にそった支援をしたいと考えている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、ゴミ捨て、食事の後片付け、洗濯物たたみ、折り紙、縫い物、おやつづくり、畑での収穫、買い物、散歩、外出など役割・楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候・天気の良いときには毎日のように散歩に出掛けている。週1回の買い物便、月に1～2回の外出、お弁当をもつての公園散策など戸外に出かける機会をつくっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安否確認表を用いる工夫もしながら、職員の見守りのもと、鍵をかけないケアに取り組んでいる。訪問日にも自身で外に出て行かれる入居者の様子が見られた。		

星風会グループホームこすもす

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。今年度、スプリンクラーの設置・消防署の点検を行った。水や缶詰など非常時の備蓄もしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理のもとで献立が作成されている。食事量の記録を行い、必要に応じて主治医や栄養士と相談しながら個人に合った栄養摂取ができるよう支援している。水分についても必要量が摂取できるよう支援している。毎月体重測定を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1号館は瓦葺屋根になっており、2号館は洋風の造りになっており、印象が若干異なっている。共用スペースには、入居者の写真や作品・書などを飾っていた。日差しをカーテンで遮ったり、不要なときはテレビを消すなど音・光にも配慮している。換気が適切に行われ、室内に気になる臭いや空気の上よみ等はなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1号館は和室、2号館は洋室のしつらえになっている。入居の際に使い慣れたものを持ってきていただくように話をしている。持ち込みの多寡はあるが、寝具やタンス等を持ち込んだり、作品を飾るなどしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。